

## 漢字一文字に込めた立志の誓い (久賀中学校)

2月12日、立志式にて2年生30人が、漢字一文字に込めた立志の誓いを1分程度で発表しました。全校生徒、保護者等の視線が集まり緊張感が高まる中、30名全員が堂々と語る姿に感動しました。また、学校運営協議会中村会長と久賀保育園の三谷園長から、久賀中学校の卒業生として、人生の先輩として、2年生に、あたたかい励ましや応援メッセージをいただきました。生徒一人ひとりの志と、地域の方の願いや期待が響き合う立志式となりました。



▲ 30人の30文字が集結した立志式

## 町内で活躍する先輩たちと語り合う 「校内ハローワーク」 (大島中学校)

12月7日、1年生・2年生合同によるキャリア教育「校内ハローワーク」が行われました。志を果たしに周防大島町へUIターンし、養蜂業、イラストレーター、学習塾、バラ園、みかん農家、花屋で活躍する20代・30代の方々と、生徒たちが輪になりワイワイと語り合っていました。働く意義や楽しさ、そして学校での学習の大切さを一人ひとりが考えることができました。この様子は、ケーブルTVの周防大島チャンネルで放送されました。



▲輪になり近い距離で語り合う中学生たち

■問い合わせ 学校教育課 ☎0820(78)2204

## 四境の役一五〇周年連載コラム ⑫

大島商船高等専門学校 准教授 田口由香

### ▼松山藩との戦後交渉

松山藩軍が大島から撤退した後、松山藩内では長州藩が攻めてくるのではないかと不安が広がりました。日尾八幡宮神主の三輪田米山は、「イギリス船が三津に停泊しており、長州藩の蒸気船ではないかと大いに騒動になる」と記しています。「米山日記」『松山市史資料集第八巻』所収)

慶応二年(一八六六年)九月二日、將軍徳川家茂が七月に急死したため休戦協定が結ばれましたが、松山藩政府は再び長州藩と戦争になることを避けるため、大島に使者を派遣することにしました。松山藩使者の奥平貞幹が記した「月窓之巻」(愛媛県立図書館所蔵、「山口県史料編幕末維新4」所収)によると、十一月十五日に小松開作で行われた交渉では、安下庄において松山藩軍が「民家を焼き立て、家財等紛散せしめ、無作法」を働いたことを謝罪して、長州藩内の松山藩への怒りを鎮めるように依頼しています。

それに対して、長州藩は今後は幕府の出兵命令に従わないことを求めましたが、松山藩は幕府の嫌疑に触れることを避け、交渉は平行線をたどりましました。交渉は防府宮市の脇本陣市川家などに場所を移して翌年三月まで行われましたが、両藩の和解には至りませんでした。この交渉での姿勢が、王政復古前後の松山藩の立場を決定づけたと言えます。

◎今回は最終回「四境の役と明治維新」についてです。



▲「月窓之巻」(愛媛県立図書館所蔵)